

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	長野県	事業実施主体	長野県、喬木村	地域再生計画名	産業と雇用を交流で生み出す村づくり計画
計画期間	令和4年度～令和8年度	評価責任者	長野県、喬木村建設環境課長 松島 淑宜		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	地域再生計画の目標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価
	目標1	目標2	基準年度	年度	中間実績	基準年度	年度	指標総数		達成数		
目標1	林産材出荷量の増	1.50万㎡	R2	1.55万㎡	R5	1.75万㎡	1.60万㎡	R8	○	2	2	既に最終目標値を達成している。
目標2	交流人口の増（いちご狩り）	9,000人	R2	12,000人	R5	15,020人	15,000人	R8	○	2	2	既に最終目標値を達成している。
目標3	交流人口の増（ブルーベリー狩り）	120人	R2	125人	R5	141人	130人	R8	○			既に最終目標値を達成している。
②事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価						
特別措置を適用して行う事業	村道200号線	862m	862m	862m	当村と豊丘村を結ぶ村道200号線の舗装修繕を実施した。リニア中央新幹線長野県駅（仮称）や座光寺スマートインターチェンジへのアクセス道として観光客の利用増加が期待されている。							
	村道620号線	1,331m	1,331m	1,331m	当村と飯田市を結ぶ村道620号線の舗装修繕を実施した。リニア中央新幹線長野県駅（仮称）や座光寺スマートインターチェンジへのアクセス道として観光客の利用増加が期待されている。							
	林道大島氏乗線	671m	121m	671m	林道大島氏乗線は、大島と氏乗の両集落を結び、経済文化の交流の促進するのみならず、令和2年7月豪雨災害で孤立した大島地区の緊急迂回路として、地域住民の安心に寄与するものとして早期完成を目指す。							
その他の事業												
計画外で独自に実施した事業	いちご狩り、ブルーベリー狩り	観光農業の実施	交流拠点施設である農村交流研修センターを窓口とし、村内に点在しているいちご狩りハウス及び大島・氏乗2地区にあるブルーベリー農園でのイベントにより、交流人口の増加につながっていると考えている。									
	グリーンツーリズム	農作業体験、農家民泊	南信州観光公社を中心として体験修学旅行の受け入れを行っており、年間60人余りの学生が喬木村を訪れている。農作業体験や農家民泊を通じ農山村の生活を都会の子供に理解してもらい、再度喬木村を訪れてもらえるよう誘客につながっていると考える。									
	観光スポットの有機的連携	観光スポット場所のコース設定	自然を満喫し自然の醍醐味を味わっていただくよう、四季それぞれの観光が楽しめるコース設定を行い、観光客の誘客につながったと考える。									
③評価方法	喬木村計画審議会を開催し、中間目標値の実現状況に関する評価・検討を行った。											
④中間評価の公表方法	喬木村ホームページに掲載 <a href="http://www.vill.takagi.lg.jp">http://www.vill.takagi.lg.jp</a>											
⑤計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した村道整備と林道整備を一体的に実施し、マイカーによる観光と交流人口の増、山間部での林業振興など効果を概ね発現できると考えている。一方、更なる山間部の森林整備観光・交流人口を回すため、観光情報発信の強化等を積極的に取り組めば、山間地域の観光・交流人口の増加等の効果が期待できる段階である。											
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況				有りの場合その具体的内容							
	地域再生計画の見直し（有・無） 令和〇年度予算要望額への反映（有・無） 有りの場合の増減額 千円				村道及び林道の事業量については、詳細調査及び詳細設計の結果から新たな危険箇所が確認されたことから増加する。村道の事業費については、環境負荷の低減が期待できる路上再生工法を採用したことにより減額する。							
⑦今後の方針等に対する対応	地域再生計画の指標については、農産物販売額及び森林間伐面積ともに目標のほぼ達成が見込まれる。引き続き、さらにKPIへの効果発現されるよう確実な事業執行に取り組んでいく。											